

IKENOBEKAI NEWS

池戸会報

Vol. **53**
DEC. 2011

全会員配布

香川大学農学部同窓会 池戸会

<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/ikenobe/index.htm>

特集

KOTO
DEN

コトデン



母校の近況

Interview

農学部育成ブドウ新品種
‘香大農 R-1’によるブランド戦略

望岡 亮介

「日本の食の安全」
留学生特別コースから

OB・OG訪問
池戸会本部報告
卒業生のひろば

Contents

特集	コトデン……………	2
ご挨拶	池戸会会長 五井 正憲…………… 香川大学農学部長 早川 茂…	6 6
母校の近況	……………	7
Interview	農学部育成ブドウ新品種 ‘香大農R-1’によるブランド戦略 望岡 亮介……………	8
香大生協協賛 特別企画	「ソヴァージュヌ・サヴルーズ」プレゼント……………	10
	「日本の食の安全」留学生特別コースから ……	11
OB・OG訪問	平木 純さん (学28、修16) ……	12
池戸会本部報告	……………	14
卒業生のひろば	支部報告……………	18
	同窓会報告……………	24
	平成22年度会員短信 ……	26
■さしこみ印刷 (別印刷)	平成22年度会費納入者 寄付者名簿	



旧瓦町駅と車両



1980年頃の車両と白山



近代化産業遺産の認定を受けた旧型車両



特集

KOTO
DEN

コトデン

「ことでん」は沿線の方々にとって大切な交通手段ですし、香川県の観光にも大きな役割を担っています。一方で、非常に熱心な鉄道ファンを全国に持っています。一般の人から見れば、身近で小さなローカル電車ですが、そのレトロ感と列車が走る景観に魅せられた人たちがたくさんいます。現在はほとんどの車両が一新され、冷暖房完備、外観も明るいツートンカラーを主軸に、企業の広告塔のような車両も走っています。1990年代まで現役で走っていたレトロ感たっぷりの車両がトレードマークであった「ことでん」ですが、「ことでん」に魅せられた人たちはもちろん、日常に利用している方々、農学部への通学に大変お世話になった私たちにとっても、今の現代的な車両はちょっと寂しい風景なのかもしれません。皆さんがよく乗り降りされた「瓦町」駅。1990年代初めより以前に「ことでん」を利用されていた方は、「八角堂」と呼ばれた十角形の駅舎で切符を買われていたはずです。JR高松駅も大き



現在の車両



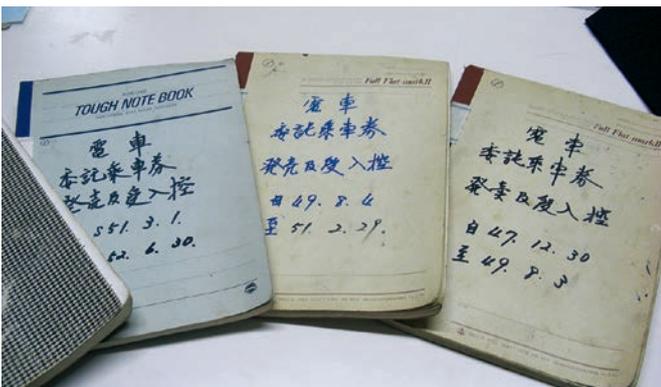
ことでんは今年で開業100周年!!



現在の農学部前駅



切符が販売されていた植村クリーニング店



歴代の切符売り上げノート (S.47～S.52)

く変貌を遂げましたが、「瓦町」駅も平成9年にオープンしたコトデンそごうを経て、現在は高松天満屋のビルに内設された近代的な駅になっています。

「農学部前」駅のある長尾線は高松電気軌道により明治45年に開業されました。当時は長尾線という呼び名はなく、昭和18年に琴平電鉄、讃岐電鉄と合併して現在の「高松琴平電気鉄道（通称：ことでん）」が誕生し、長尾線の名も付きました。「農学部前」駅は「田中道」という名称で高松電気軌道の開業当初からあり、昭和25年に「農大前」、昭和33年から「農学部前」に駅名が変更されています。

農学部生であれば、「農学部前」駅で一度は切符を買われたことがあるはず。その切符を販売していたのが駅のすぐ前にある「植村クリーニング店」。プラットホームに切符の自動販売機が設置された平成17年、受験に来校するたくさんの学生のために二次試験が行われる2月末まで販売を続けた後、残念ながら切符売り場を閉められてしまいました。今も変わらず営業されている植村クリーニング店。切符を販売されていた当時のお話を聞かせていただきにお店を訪問してきました。



最後まで切符の販売をされていたのは植村好香さん。こちらに嫁がれた頃はお母さん（お姑さん）が切符の販売をされており、乗客がたくさんいるときにお手伝いすることからご自身のキャリアが始まったそうです。乗客が極端に多いのは、やはり農学部で行われる入学試験の日。一番多い年で一日に600枚ほどの切符を販売されたそうで、こんな日の方が緊張感があって売り上げ金額の間違いがほとんどなかったとか（すべて人の手で行われていますので、間違いがあっても仕方がないですね）。毎日の切符の売り上げを記録した歴代のノートを見せていただきましたが、その日の売り上げが乗車区間ごとに整然と記されており、当時の乗車記録として、一級の資料ではないかと思われました。販売のほぼ最後となった平成17年の農学部二次試験日（2月25日）には368枚が販売されており、その年、植村さんの手によって記された乗車記録の最大数になっていま

す。学生運動が盛んだった頃はプラカードを持って電車に乗り込む学生もいたとか。女子学生が格段に増えたことも手伝い、お店から眺める今の学生は華やかに映るそうです。

無人駅に手売りの切符、つい何年か前まですべてがレトロだった「ことでん」でした。



本特集には、『ことでん長尾線のレトロ電車－写真と音でつづる「つわもの」80年の歴史－』文・写真 大島一郎&写真 川波伊知郎、JTBキャンブックスを引用資料として活用させていただきました。本書は長尾線を主に、「ことでん」の歴史が詳細に記された高著です。また、本書の著者でもある川波伊知郎さんから、この特集を作成するにあたり、貴重な写真をたくさんご提供いただきました。この場をお借りしましてお礼申し上げます。



現在はIruCa（いるか）カードで乗り降り可能



先ず会いましょう



池戸会会長
五井 正憲
(賛・学8)

今年は、日本列島の北から南まで、自然からも、人間にしあわせをもたらす筈の科学技術からも、手ひどい災害を蒙りました。直接被害を受けられた方はむろんのこと、間接的に諸々の被害を受けられた皆様にも、申し上げるべき言葉を探しあてることが出来ません。ただただ、被災された皆様が一日も早く元気を回復されるよう願うばかりです。

さて、わが池戸会では、会員諸氏から寄せられたご意見等を参考に、この2年間余りをかけて、同窓会への関心を高めるのに有効と考えた事業を実施し、会の活性化の基礎固めに努力して参りました。

その結果として、OBによる授業分担や就職支援セミナーを通じて、OBと在学生（一部の教員も）との交流が実現し、クラス会や学年会開催の促進によって、同世代間、また池戸会本部と会員の交流も徐々に増えています。池戸会OBの事務局訪問、あるいは農学部見学が増えてきたのは、事業の効果でしょうか？

池戸会にとってもう一つ重要な課題は、支部活動の促進です。これに関して、県外支部（東京、中部、京滋、兵庫、大阪、奈良、和歌山、徳島、高知、愛媛、広島、岡山）は、役員の若返りや運営の工夫で、それぞれに活動を続けており、今年度には大分と島根に支部が新設される状況です。一方、県内支部では、役員の高齢化や事業のマンネリ化のため、休会状態のところがあり、対策が急がれています。現在、問題のある支部へ出向いては、役員の若返りや運営方法の再検討の話し合いを続けています。その結果として、休会していた支部の再開、低調化していた支部の活性化などが見えてきました。来年の総会までに、事態はかなり好転する筈です。

この何年間か、池戸会の活性化について考え、行動してきたことは、人に会い話し合うことで、多くの問題は越えられる。皆さん、お互いに会って話してみましょ。 「目からウロコ」もけっこうありますよ。

ご挨拶

このたび学部長に再任され、10月から2年間務めることになりました。本学部の教育研究の発展のために力を尽くし、思いを尽くして働く所存です。気持ちを新たに池戸会会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

稲が黄金色に色づく季節を迎え、つくづく農業・農学のありがたさを感じます。東日本大震災では多くの方々が亡くなり、多くの方々が被災しました。ご冥福を祈りますとともに、一刻も早い復興を祈ります。また、この震災を機に農業の大切さや家族の絆の大切さを痛感された方も多いと聞いています。農業に関連する学問を業としている私たちも日本の復興に対し、真摯に立ち働かなければなりません。

さて、農学部は1学部1学科4コースとなって6年目を迎えます。このコース制が学部教育により良い効果をもたらすために、さらなる工夫をする時期にさしかかっています。また、大学院も新たにカリキュラム改革をして、平成24年度から新しいスタイルでスタートする予定です。

最後になりましたが、農学部はこの2年ほどで10名の新しい教員を迎えました。新たに加わった教員を含め全員が一丸となって教育研究をさらに高めてまいります。池戸会会員の皆様方の多大なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



香川大学農学部長
早川 茂

母校の近況 NEWS

教員の近況 去る3月31日をもって1名の先生が退職、1名の先生が転出されましたのでご紹介致します。

教員の退職



市川 俊英 先生

市川先生は昭和50年10月に当時の園芸学科に着任され、以来、35年の長きにわたり農学部において勤務されました。この間、応用昆虫学分野においてウンカ類の配偶行動の研究（昭和53年に日本応用動物昆虫学会賞を受賞）、オリーブアナアキゾウムシの効率的な防除方法の開発、香川県の里山に生息する昆虫の生態（特にクヌギ樹液を滲出させ、そこに多様な昆虫を誘引して捕食するボクトウガ幼虫の行動）に関する研究などで多くの研究業績をあげられました。また、学部学生や大学院生の教育と学術研究に尽力されると共に、農業生産学科長、図書館・情報機構博物館副館長などを歴任され、学内運営に多くの貢献をされました。

以上、ここに退職された市川先生の教育研究のご功績を称えるとともに、その一端を記して感謝の意を表します。

教員の転出



一柳 孝司 先生

一柳先生が平成23年4月1日より、新潟工科大学（教授）に転出されました。一柳先生は平成21年4月に着任し、食品素材に含まれる機能成分による疾病予防効果の科学的な検証を中心に研究・教育され多くの業績をあげられました。新任地でのより一層のご活躍をお祈り致します。

教員の昇任

平成23年4月1日 准教授 鳴海 貴子（花き園芸学）
平成23年4月1日 准教授 五味 剣二（植物病理学）

学会賞等の受賞

古本 敏夫 教員（准教授）

受賞名：日本農芸化学会中四国支部奨励賞

受賞研究：ゴマの生産するプレニルキノン類に関する生物有機化学的研究

受賞年月日：平成23年5月21日

訃報

桑田晃先生逝去の報に接し、巨星落つの痛恨胸に在りし日の先生を偲び、追悼の一文をうやうやしく奉げさせて戴きます。

先生は種族間植物の遺伝育種の創成期の研究と学生の指導に先駆的な役割を担われた至宝でありその業績と権威は世界の研究者の認めるところであります。

先生は主として研究に供されたアオイ科植物に限らず関連分野に跨がり、学会、世間の関心の有無に係わらず、見捨てられた材料の古きを訪ね、観察の妙味を会得させておいでました。

現在華やかに登場して来た製品としての和紙とその製法の陰で見捨てられた和紙材料で、製品の質を左右する分類、グループ別けなどを識別する、観察技能者は和紙博物館においても見当りません。

進歩は問題を含んで進歩する、その見捨てられた材料の中に、創造的オリジナリティを見出してこそ進歩

が社会に貢献すると語られました。

即ち今日の大学人へ、その教育に求められる内容を半世紀前に黙々と語り観察を尊ぶ教育は語り継ぐべき遺産であります。

時代に先駆ける壮美の光が、今將に迫りくる時代の分水嶺を前に、先生のご逝去はただ巨星落つの痛恨の一語と先生の薫陶を受けた卒業生が多彩な人材に育った姿を見届けて戴きたかったです。

最後に桑田晃先生、三途の川の前でしばし、お待ちいただき「アカン、アカン…」の最後の薫陶を述べた後、お渡り戴きたい同門の願いであります。

ご冥福をお祈り申します。



桑田 晃先生

高橋 道彦（農1回）

農学部育成ブドウ新品種 ‘香大農R-1’によるブランド戦略

大学発ブランドワイン その名は「芳しき野生の乙女」

ブドウ品種 ‘香大農R-1’

香川大学農学部の望岡亮介教授により、沖縄地方に自生する野生ブドウの『リュウキュウガネブ』と栽培品種の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’を交配・育成された品種。2006年に‘香大農R-1’として品種登録。アントシアニンやポリフェノールの含有量が高い。開花は5月末で、9月下旬から10月上旬にかけて収穫。

もちおかりょうすけ

望 岡 亮 介

RYOSUKE MOCHIOKA

金木犀がほのかに香る9月末。附属農場の一角に枝も撓わに実ったブドウがあった。「先日も大分から視察で来られましたよ」と、附属農場長の望岡亮介教授は収穫間近のブドウ新品種‘香大農R-1’の房を手を取った。

果樹の園芸学的利用を領域とする果樹園芸学のうち、望岡教授の研究テーマは日本原産野生ブドウの遺伝資源収集とその利用である。一般に、高温地域でのブドウ栽培では果実の着色不良が問題となっており、望岡教授はこの問題を解決するために、日本に分布する7種8変種の野生ブドウのうち、「沖縄地方に自生する野生ブドウ『リュウキュウガネブ』の耐暑性に着目して、これを育種親に利用できないか」と考えた。1989年、望岡教授は栽培種の‘マスカット・オブ・アレキサンドリア’と交配した。この組合せでは種子が得られなかったとの報告はあったが、望岡教授の研究でなんとか種子を得ることができた。翌年にはその種子を播種し、さらに2年後には初成りを得た。少量ではあるが、得られた果実を国税庁醸造研究所に持ち込み試験醸造を依頼した。出来上がったワインを初めて飲んだとき、「正直、飲み口がまろやかすぎてワインとしては少し不安でした。」と、望岡教授は当時を振り返る。しかし、ワインの色も良く、分析の結果、ポリフェノールやアントシアニンなどの機能性成分を豊富に含んでいることが明らかとなり、その不安も一挙に吹き飛んだ。

本格的な研究開発は、香川大学と香川県、ワインメーカーとの共同で2001年にスタートした。挿し木や接ぎ木で増殖した株からある程度まとまった量の果実が収穫



でき、製品化に向けて第一歩を踏み出した。それと同時に種苗登録も行い、新品種‘香大農R-1’として世に出た。「当初は収穫量が伸びなかったのですが、雨よけ栽培による技術開発で問題を解決できました。」現在では、附属農場のほかに香川県農業試験場と委託農家でも‘香大農R-1’の試験栽培を行っており、「今年の収量は8トンを見込んでいます。」とのこと。‘香大農R-1’を醸造したワインは、飲み口がまろやかで、渋味は少なく、新酒（ヌーボー）として味わうのに適した酒質である。このワインは野生ブドウに由来するブドウ品種の生い立ちにちなんでフランス語の「ソヴァージュヌ・サヴルーズ（芳しき野生の乙女）」と名付けられ、香川大学農学部発のブランドワインとして、香川大学生協、さぬきワイン株式会社、三越などでも販売され地域のワインとして親しまれている。

望岡教授に今後の抱負を伺った。「一般に高温地域ではブドウの栽培に適さず、いわゆる『ブドウ栽培空白地帯』になっていますが、このような条件でも栽培できる新しいブドウ品種を育成したいです。」望岡教授の今後のブランド展開に大きな期待が寄せられている。

Profile

望岡亮介（もちおかりょうすけ）
教授、附属農場長、博士（農学）

専門分野：果樹栽培学

近況：この数年、ご縁があって沖縄に行くことが増えました。今年は何月のように訪問しています。



農学部育成ブドウ新品種「香大農R-1」を使った
赤ワイン「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」を

抽選で10名様に

本号記事で紹介した『ワイン』をこの機会に是非ご賞味下さい。

池戸会正会員・準会員保護者の方から抽選で
農学部育成ブドウ新品種「香大農R-1」を使った赤ワイン
「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」
360ml ハーフボトル1本を 10名様にプレゼント！



「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」

(写真とプレゼント賞品とは異なる場合があります)

応募資格 平成23年度の会費を納められた池戸会正会員（80歳以上で会費
納入を免除された方を含む）および入会金を納められた池戸会準
会員の保護者。

会報に同封のはがきにプレゼント券（このページ下部）を貼付して、
郵便番号、現住所、氏名（準会員は学生および保護者の両名）、電
話番号、卒業年度（在学年次）、学科等、近況通信等を書いて下記
まで郵送して下さい（切手は貼付して下さい）。ご記入いただいた
近況は池戸会報に掲載する場合があります。住所等の個人情報は池
戸会の情報確認と賞品の発送に利用し、第三者に開示・提供するこ
とはありません。

送り先 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局
〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393 香川大学農学部内

応募締切 2012年3月23日 金曜日（必着）

当選者発表 池戸会報第54号（池戸会ホームページでも発表します。）

問い合わせ先 香川大学農学部同窓会 池戸会事務局 電話：(087) 898-8615
e-mail: ikenobe@ag.kagawa-u.ac.jp

「ソヴァジョーヌ・サヴルーズ」は、香川大学生協でも販売しています。販売に関するお問い合わせは、香川大
学生協学館ショップまでお願いします。（第52号で紹介した『さぬきよいまい』を使った日本酒もあります）。

香川大学生協学館ショップ

TEL: (087) 833-5755 FAX: (087) 833-4604
e-mail: gakkan-shop@sings.jp

『さぬきよいまい』純米酒当選者のお知らせ

池戸会報第52号でご案内しておりました香川大学生協協賛特別企画「さぬき
よいまい純米酒プレゼント」に多数のご応募いただきましてありがとうございます。
厳正なる抽選の結果、10名の当選者を発表いたします。

泉 悦夫 様 岩谷 綾乃 様 河北一馬 様 白坂正明 様
田井敏司 様 高原宣隆 様 永田陽頼 様 藤田 幹 様
盛野 元 様 吉川元治 様



池戸53
ワイン
プレゼント券

「日本の食の安全」 留学生特別コースから

香川大学大学院農学研究科では、経済産業省と文部科学省がはじめた、「アジア人財資金構想」に平成19年から参加しています。アジアからの優秀な留学生を日本に招聘、日系企業での活躍の機会を拡大するため、産業界と大学が一体となり、留学生の募集・選抜から食品に関する専門教育・日本語教育、就職活動支援までの人材育成プログラムを一貫して行います。アジア人財資金構想の構想を図示化したものが下図です。



「日本の食の安全」プログラムとは、

高度専門留学生育成事業は、ものづくり・IT等を中心に23のプログラムが全国で採択されていますが、「食品」を対象としたのは、**香川大学だけのオンリーワンのプログラム**です。農学研究科では、「日本の食



の安全」の観点から、総合的に食の安全に必要な能力を体系的に身につけ、かつ経営感覚を身につけ企業幹部となりうる人材を育成することを目的に、プログラム参加民間企業（味の素冷凍食品(株)、伊勢丸食品(株)、(株)オープン、テーブルマーク(株)、(株)ニチレイフーズ、日本食研(株)、(株)ハマダフードシステム、(株)ホワイトフーズ、キング醸造(株)、オタフク、全10社）と共同で、毎年5名の東南アジア等からの留学生に実践的教育を行っています。事業仕分けのため、2010年度より国の支援から自立化し、現在は、香川県や四国経済産業局の支援を受けながら、事業の管理・運営を行っています。

詳しくは、以下のHPをご参照下さい。

<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/asiajinzai/index.html>
本プログラムは食品産業界との連携した教育プログラムですので、卒業生の皆様の所属される企業とも連携して歩みたいと考えておりますので、ご関心のある企業の方は、農学部「日本の食の安全」支援（087-891-3127）に問い合わせください。（文責、農学部教授田村啓敏）

修了生 紹介



2011年 香川県食品関連企業就職者
スートンジャナギットモニターさん



タイのカセサート大学農産学部を卒業し、2009年香川大学大学院農学研究科「日本の食の安全」留学生特別コースに入学しました。趣味は、料理教室に通うことと、スポーツをすることです。日本文化と日本ビジネス文化を理解して、タイと日本のみならず、国際的に食品分野で活躍したいと考えています。

OB・OG訪問

JNC 株式会社 主席企画員

平木 純 さん(学28、修16)



Jun Hiraki

今回のOB・OG訪問は、JNC株式会社(チッソ株の事業再編により設立された事業会社)にお勤めの平木純さんにお話を伺いました。平木さんは、昭和54年に農学部農芸化学科(当時)に入学され、卒業後は大学院に進学し、修士課程修了後、チッソ株に入社されました。入社のかっかけは、学生時代の指導教員であった岡市友利先生(本学元学長)、桑原正章先生(当時、食品学科微生物利用学研究室教授、後に京都大学木材化学研究所教授)のご紹介であり、入社後は、横浜研究所、事業部(技術営業担当)、戦略事業開発室(ヘルスケア製品開発担当)、人事部を経て、現在は、JNC株式会社の研究開発本部において主席企画員として、ご勤務されておられます。その間、横浜研究所時代には、千葉大学医学部に約9ヶ月間派遣され、また、平成11年には、共同研究先の鳥取大学大学院において工学博士の学位を取得されておられます。

編集委員：まずは、学生時代の思い出について教えてください。

平木さん：学生時代は、海水利用学研究室に所属していたことから、大学の調査船先代のカラヌスでの、強風でずぶ濡れになりながらのサンプリング調査は特に思い出に残っています。また、ときには海水を求め、東大や広大の研究船に乗って、東京から瀬戸内海までの調査航海したことも印象に残っています。

編集委員：次に、入社後、会社で取り組まれたことについて教えてください。

平木さん：会社では、学生時代に赤潮プランクトンの生理活性物質について研究し、天然物化学を専攻していたことから、横浜研究所に配属され、微生物が発酵生産する生理活性物質の探索、開発を担当しました。探索の結果、テーマアップしたのは、ポリリジン(アミノ酸のL-リジンのホモポリマー)でした。この物質は、放線菌が生産する抗菌性物質であり、数年前に大阪府立大学酒井平一教授、島昭二博士により発見されていましたが、生産性は低く、用途開発も進んでいませんでした。私は、生産性向上の研究と共に、食品の日持向上剤としての用途開発、安全性試験等を行いました。また、食品添加物として認可後は、開発担当として

拡販業務も行いました。当時はコンビニエンスストア等の弁当、惣菜の拡大期であり、安全で、食品の風味を損なうことの無い物質として幅広い食品に利用されました。その後、順調に拡販が進み、生産設備を増強するためメルシャン株と合弁でサンバイオ株を設立、熊本県八代市に工場を建設しました(写真)。この際には、3ヶ月間単身赴任状態で取り組み、大型設備ならではの課題、またチームでの課題解決など大変勉強になりました。何といたっても物を製造してこそメーカーですから。

編集委員：その後、人事部へ異動されたとのことですが。

平木さん：人事部への異動は、全く畑違いかと思いましたが、採用・教育担当で、社員の80%



が技術系出身者である当社では、採用も社員教育も技術系が主体です。若い学生さんや新入社員等と触れ合うことで、こちらまで若さをもたらったようでした。また、これまで社外の人との交流が主体であり、社内の他分野を殆ど知らなかったため、社員研修等を通じて社内人脈が広がったのも大きな成果でした。

編集委員：現在のお仕事について教えてください。

平木さん：現在は、新たな事業開発を行うため、東奔西走しています。検査薬への応用開発している熱応答性磁性ナノ粒子、バイオエタノール生産技術開発（環境省委託事業）、農業をサイエンスにすべく「農業技術システム開発」（果菜類の栽培技術）等に取り組んでおり、皆様にこれらの商品を早く届けたいと思っています。

編集委員：最後に、後輩（在校生）へのメッセージをお願いします。

平木さん：学生時代にしっかりと基礎を学んでほしい。語学も。また、社会人になって出来ることは社会人になって行えばいい、大学生にしかできないことをしっかり行ってほ



しい。さらに、技術系学生の多くは、研究開発をしたいと希望されますが、企業（特にメーカー）は、物を作って初めて商売となります。そのため、製造がとても重要で、多くのノウハウが蓄積されています。大学では触れる機会が少ないかもしれませんが、企業（メーカー）への入社を目指すのであれば、会社訪問や工場見学などで少し触れる機会を持たれると良いのではないのでしょうか。

※紙面の都合上、一部割愛させていただきましたが、とても貴重なお話やメッセージをありがとうございました。心より御礼申し上げます。（編集委員）

東日本大震災とそれに伴う大規模災害を受けられた地域の池戸会会員の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

先の東日本大震災に際して、池戸会では被災地域の会員の方々に、3月末にお見舞いのお葉書きを送付いたしました。震災直後より、「何かしなければ」と思っておりましたが、今の池戸会の貧弱な体質では、個々の会員の皆様に対して何のお役にも立てません。そこで、せめて、お見舞いのお便りだけでも、皆様のご無事とご健勝を心からお祈りしたい一心で、下記のようなお葉書をお送りしました。

お送りした葉書きの表の写真と「いつも池戸会は、皆さんと共にいます！」の一文には、『被災地域におられる会員の方が、つらい毎日のなかでも、ふと、母校を思い出して元気を出して下さいませば…』との私たちの思いをこめました。



東北・関東地域池戸会会員の皆様へ
震災お見舞いを申し上げます。

巨大地震とそれに伴う大規模災害を受けられた地域の池戸会の皆様、いかにお過ごしでしょうか。

今回の災害は、われわれ日本人が想像することさえできなかったほどすさまじいもので、被災された方々のご苦労、ご心労は思いに余るものがあります。

池戸会としては、早速、物心両面で何かのお役に立たなければならないところですが、いかにせん全体の情報が掴めず、また今の貧弱な体質では、個々の会員の皆様に対してほとんど何のお役にも立てません。文面だけで申しわけありませんが、皆様のご無事とご健勝を心からお祈りする次第です。

なお、今後のことについて、皆様からご照会、ご要望等がございましたら、ご遠慮なくお申し出下さい。

平成23年3月24日 池戸会会長 五井正憲

池戸会本部：〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸 2393

電話（FAX 兼用）087-898-8615

（電話は平日午前9:00～午後2:30のみ）

Email: ikenobe@ag.kagawa-u.ac.jp

HP: <http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/ikenobe/>

池戸会 本部報告

■平成23年度池戸会本部役員

会 長	五井 正憲 (学8・園芸)	理 事	宮崎 尊文 (学26・園芸) 香川県庁 白井 秀憲 (学20・農工) 高松市役所 川東 俊雄 (学10・農工) 三木 三木 英三 (学13・農化) 事務室 岡崎勝一郎 (修7・食品) 総務 川田 和秀 (修7・園芸) 総務 多田 邦尚 (修16・農化) 会報 木村 義雄 (博3・食品) 会計 奥田 延幸 (修22・園芸) 情報管理 田中 直孝 (博12・生物資源) 学内活動
副会長	脇谷 武 (農2・農学) 山本 弘幸 (学10・農学)		
顧 問	学長 一井眞比古 農学部長 早川 茂 前会長 中條 利明		
評議員	(下記一覧表)		
監査員	佐々木省三 (学8・園芸) 奈良 稔邦 (学13・農学)	幹 事	田淵 光昭 (博9・生物資源) 幹事 山口 一岩 (修32・生物資源) 幹事

■平成23年度各支部長及び本部評議員一覧表

支部名	支部長	評議員	評議員	評議員
大 学	岡崎勝一郎 (修7)	川田 和秀 (修7)	多田 邦尚 (修16)	
県 庁	高尾 武司 (学19)	宮崎 尊文 (学26)	喜多 一夫 (学27)	
市 役 所	白井 秀憲 (学20)	白井 秀憲 (学20)		
統 計	松岡 清隆 (農2)	亀山 信夫 (学2)		
食 糧	木村 耕造 (専2)	木村 耕造 (専2)		
三 木	中西 弘 (学3)	山地 康夫 (学3)	森 宏樹 (学23)	
大 川	水口 勝 (専2)	水口 勝 (専2)	金岡 恵次 (攻4)	千田 良信 (学19)
高松中央	小西 薫 (36)	寒川 捷夫 (36)		
高 松	脇谷 武 (農2)	西谷 國宏 (学4)	西岡 順 (学7)	
高松東部	伊谷 博明 (学3)	山地 政治 (農2)	辺見孝一郎 (学4)	
高松南部		松村 勝彦 (46)		
高松西部	森谷 忠造 (学8)	森谷 忠造 (学8)	片岡 浩一 (学5)	
龍 雲	白坂 正明 (学1)	白坂 正明 (学1)	太田 質 (学6)	
綾 歌	横井 清 (学1)	原 豊 (専2)	杉村 和則 (学3)	
小 豆	井藤 典彦 (修1)	浜中 幸三 (学15)		
香 川	石川 肇 (学16)	新名 昇 (学16)		
三 豊	宝城 明 (学11)	永田 陽頼 (学20)	近藤 博樹 (学34)	
愛 媛	矢野 庄志 (学4)	原 國紘 (学6)	山本 勝教 (学13)	
高 知	平岡 英一 (学8)	森澤 徹男 (学11)		
徳 島	瀬部 幸生 (学12)	瀬部 幸生 (学12)	木村 博信 (学12)	伊澤 賢二 (学12)
岡 山	羽原 政明 (学17)	羽原 政明 (学17)	野村 正己 (学18)	中杉 光廣 (修9)
広 島	水主 洋三 (学10)	水主 洋三 (学10)	黒川 章男 (学10)	
兵 庫	葛西 利延 (学8)	青山 義昭 (学4)	武田 和義 (学17)	田村 哲哉 (学34)
大 阪	水野 佳純 (学12)	植原 米一 (専2)	大井 寛 (学11)	柳川 和彦 (学26)
和 歌 山	平野 隆二 (学9)			
京 滋	三浦 隆子 (学15)	三浦 隆子 (学15)	佐藤 安夫 (学4)	
奈 良	山本 英雄 (修2)	山本 英雄 (修2)	東本 安雄 (学6)	
中 部	荒金 幹雄 (学10)	荒金 幹雄 (学10)		
東 京	大崎 武久 (学7)	宮下 公一 (学12)	秋田 浩一 (学22)	

■平成22年度事業報告について

1. 池戸会臨時評議員会・総会の開催 6月27日(日)
香川大学農学部 DS304
2. 支部活動の援助 平成21年度卒業・修了生の就職内定簿の送付(希望支部)
3. 支部総会の助成 開催支部への祝い金の贈呈、本部役員、教員の出席(通年)
4. 同級会及び個人会員へのサービス向上、会員動向調査、会館施設等の助成援助(通年)
5. 池戸会報第52号編集発行、9,000部、全員配布(12月)
6. 学内活動
新入生入学祝品(キャンパスノート)
同窓会入会金徴収(4月～8月)
第22回学内ソフトボール大会の主催(6チーム参加 10月)
当該年度卒業生・修了生への学位記ホルダーの贈呈(3月)
7. 池戸会活性化対策事業
8. 平成22年度支部総会開催状況

支部名	開催日	開催場所	本部出席者
高松西部	5月30日	高松 一心	五井会長
奈良支部	5月30日	奈良 猿沢荘	田中(道)教員
京滋支部	6月27日	京都 めん坊	田中(直)教員
香川支部	7月4日	高松 和幸	五井会長
食糧支部	7月10日	高松 仲見世	渡邊教員
東京支部	7月25日	東京 東京さぬき倶楽部	田中(道)教員
高松東部	8月8日	庵治 さぎなみ亭	五井会長
岡山支部	10月2日	岡山 ピュアリティほきび	多田教員・山口教員
高知支部	10月23日	高知 葉山	岡崎教員
徳島支部	10月23日	徳島 グランドパレス徳島	五井会長・脇谷副会長
三木支部	10月31日	三木 丸幸	五井会長・岡崎教員
高松支部	11月6日	高松 香南楽湯	五井会長
広島支部	11月6日	広島 広島国際ホテル	田中(道)教員
龍雲支部	2月25日	高松 新樺川観光ホテル	田中(道)教員・川田教員

■平成22年度 収支決算書

収入額	6,434,931円
支出額	5,557,034円
差引残額	877,897円

収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)
前年度繰越金	904,347	904,347	0
会費	2,000,000	1,700,000	△ 300,000
入会金	2,900,000	3,140,000	240,000
寄付金	700,000	560,312	△ 139,688
利息	3,000	24,152	21,152
雑収入	50,000	106,120	56,120
合計	6,557,347	6,434,931	△ 122,416

支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	差引増減(円)
賃金	1,330,000	1,336,400	6,400
旅費	360,000	298,000	△ 62,000
消耗品費	60,000	61,778	1,778
通信費	820,000	787,060	△ 32,940
光熱水費	70,000	62,720	△ 7,280
会議費	100,000	90,442	△ 9,558
会報費	920,000	957,580	37,580
支部総会助成費	200,000	140,000	△ 60,000
支部援助費	150,000	30,000	△ 120,000
同窓活動費	100,000	97,590	△ 2,410
学内活動費	300,000	292,034	△ 7,966
同窓会連合会費	100,000	100,000	0
振替手数料	110,000	89,349	△ 20,651
雑費	250,000	214,081	△ 35,919
予備費	87,347	0	△ 87,347
基本金	1,600,000	1,000,000	△ 600,000
合計	6,557,347	5,557,034	△ 1,000,313

■会費(支部経由)納入状況

平成23年3月31日現在

	20年度(人)	21年度(人)	22年度(人)	(額)
県庁	19年50 20年50	50	50	100,000円
統計	0	19年7 20年4	21年4	8,000円
食糧	21年10	0		0円
大学	12	10	13	26,000円
高松	0	20年15	21年12	24,000円
高松西部	31	32	29	58,000円
龍雲	34	26	22	44,000円
綾歌	16	14	12	24,000円
東京	16	28		0円
京滋	14	13	13	26,000円
合計	233	199	155	310,000円

■ 会費（個人振り込み）地域別納入状況

平成23年3月31日現在

地域	県名	20年度(人)	21年度(人)	22年度(人)	地域	県名	20年度(人)	21年度(人)	22年度(人)
四国	香川	404,000円(202)	382,000円(180)	436,000円(188)	東海	三重	12,000円(6)	8,000円(4)	12,000円(6)
	徳島	112,000円(56)	124,000円(57)	96,000円(46)		愛知	42,000円(21)	52,000円(22)	42,000円(21)
	高知	18,000円(9)	8,000円(4)	12,000円(6)		岐阜	8,000円(4)	18,000円(5)	4,000円(2)
	愛媛	32,000円(16)	58,000円(25)	42,000円(20)		静岡	22,000円(11)	22,000円(7)	14,000円(7)
中国	岡山	184,000円(89)	156,000円(75)	182,000円(78)	関東	東京	34,000円(17)	38,000円(17)	40,000円(16)
	広島	62,000円(27)	22,000円(11)	28,000円(13)		神奈川	38,000円(19)	44,000円(18)	22,000円(11)
	鳥取	6,000円(3)	8,000円(4)	10,000円(5)		埼玉	30,000円(11)	9,000円(5)	16,000円(8)
	鳥根	8,000円(4)	18,000円(8)	2,000円(1)		栃木	2,000円(1)	4,000円(2)	4,000円(2)
	山口	16,000円(8)	18,000円(9)	26,000円(13)		群馬		2,000円(1)	
九州	福岡	28,000円(14)	18,000円(9)	26,000円(13)	信越	茨城	14,000円(7)	12,000円(6)	10,000円(5)
	佐賀	2,000円(1)	2,000円(1)	2,000円(1)		千葉	24,000円(12)	28,000円(14)	22,000円(10)
	長崎	12,000円(6)	6,000円(3)	4,000円(2)		長野	8,000円(4)	2,000円(1)	
	熊本	4,000円(2)	4,000円(2)		北陸	富山		2,000円(1)	2,000円(1)
	大分	22,000円(11)	20,000円(10)	18,000円(9)		新潟	6,000円(3)	6,000円(3)	6,000円(3)
	宮崎	10,000円(5)	2,000円(1)	2,000円(1)		石川	4,000円(2)		2,000円(1)
	鹿児島	14,000円(3)	12,000円(6)	24,000円(5)		福井	4,000円(2)		2,000円(1)
沖縄	沖縄	4,000円(2)	2,000円(1)	2,000円(1)	東北	福島	2,000円(1)		2,000円(1)
近畿	兵庫	154,000円(77)	128,000円(64)	136,000円(65)		山形	2,000円(1)		
	大阪	94,000円(43)	78,000円(39)	66,000円(33)		宮城	2,000円(1)	4,000円(2)	
	京都	36,000円(18)	26,000円(13)	22,000円(10)		秋田	4,000円(2)	4,000円(2)	4,000円(2)
	滋賀	6,000円(3)	8,000円(4)	6,000円(3)		青森	2,000円(1)		
	奈良	20,000円(9)	12,000円(6)	26,000円(9)	北海道	8,000円(4)		4,000円(2)	
	和歌山	10,000円(5)	14,000円(7)	14,000円(7)	合計		1,526,000円(743)	1,381,000円(649)	1,390,000円(628)

■ 平成23年度事業計画

- 池戸会評議員会の開催（6月26日 農学部 DS304）
- 支部活動の援助・支部総会の助成等
 - 支部会費徴収に伴う還付金の交付
 - 卒業生修了生の就職内定名簿の送付
 - 本部役員及び教員の派遣
 - 名簿情報等の提供
- 池戸会報第53号の編集発行 全員配布
- 池戸会活性化対策事業・本部への求心力強化活動
 - 支部再建の促進
 - 在学生の教育・就職支援
 - 学外OB会員による本部事業の実施支援の試行
 - ホームページについて
- 学内活動
 - 新入生への祝い品・会報の贈呈
 - 新入生からの入会金の徴収（4月～8月保護者への督促）
 - 第23回学内ソフトボール大会の主催（10月）
 - 平成23年度卒業生・修了生に学位記ホルダーの贈呈（3月）

■平成23年度収支予算書

予算額 6,630,897 円

収入の部

費目	22年度予算額(円)	23年度予算額(円)	差引増減(円)
前年度繰越金	904,347	877,897	△ 26,450
会費	2,000,000	2,000,000	0
入会金	2,900,000	3,000,000	100,000
寄付金	700,000	700,000	0
利息	3,000	3,000	0
雑収入	50,000	50,000	0
合計	6,557,347	6,630,897	73,550

支出の部

費目	22年度予算額(円)	23年度予算額(円)	差引増減(円)
賃金	1,330,000	1,330,000	0
旅費	360,000	360,000	0
消耗品費	60,000	60,000	0
通信費	820,000	800,000	△ 20,000
光熱水費	70,000	70,000	0
会議費	100,000	100,000	0
会報費	920,000	980,000	60,000
支部総会助成費	200,000	200,000	0
支部援助費	150,000	150,000	0
同窓活動費	100,000	100,000	0
学内活動費	300,000	300,000	0
同窓会連合会費	100,000	100,000	0
振替手数料	110,000	110,000	0
雑費	250,000	500,000	250,000
予備費	87,347	120,897	33,550
基本金	1,600,000	1,350,000	△ 250,000
合計	6,557,347	6,630,897	73,550

■会費納入のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分をまとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。なお、80歳以上の方は無料です。

■来年度総会のお知らせ

平成24年6月24日(日)に、農学部にて開催の予定です。総会ですので、皆様ご出席下さい。出席される方は事務局までご連絡下さい。なお、総会と評議員会は隔年開催です。

■住所不明者一覧

本部事務局では、会員名簿台帳の作成・会報の配布・各支部への会員所在通知などのため、全会員の住所等を正確に保持するのに苦勞しています。現在、下記の方々の所在が不明です。ご存知の方はご面倒ですが本部までご一報下さい。本部の連絡先は、裏表紙に記載してあります。

H22年度住所不明者一覧

氏名		
植松 茂	木田農 37	
森本 憲三	木田農 42	
渡辺 竹文	木田農 43	
大嶋 一幸	木田農 44	
野村 義雄	蚕 20	
森川 允弘	併設中 1	
西岡 茂芳	農専 1	産
川崎 正	農専 2	農
古川 祐甫	農大 1	園
栗原 勇	学 11	農
広瀬 正三	学 16	農
大嶋 啓子	学 18	食
佐治 満	学 18	農
鶴嶋 鉄	学 20・修 9	園
猪澤 清和	学 21	食
太田 誠一	学 21・修 9	化
富浦 啓	学 24	化
竹内 敏彦	学 24	化
多留 明彦	学 28	食
渡辺 浩	学 29	工
須田 毅	学 32	食
大塚 庸一郎	学 36	資
小林 利恵	学 37	農
山崎 明子	学 40	資
華房 学	学 41	工
山本 晋司	学 42・修 30	農
須本 奈々	学 43	資
千田 基博	学 44	工
大谷 貴教	学 45	農
杳掛 裕子	学 45	農
末包 亜矢子	学 45・修 33	資
福家 貴子	学 47	命
大西 景子	学 48	産
後安 俊明	学 48	命
山下 洋平	学 48	産
太田 晃子	学 50	資
小木 曾雄介	学 52	命
神崎 啓亮	学 52・修 40	資
三上 雄大	学 52・修 40	資
大西 見佳	学 53	資
岡本 俊夫	学 53・修 41	命
福間 香織理	学 53	命
清水 ゆかり	学 55	産
三井田 聡司	学 55	応
三村 晃弘	学 55	応

卒業生のひろば

支部、同窓会、会員短信

池戸会が農学部収穫祭で活躍！

会長 五井 正憲

去る11月3日に開催された農学部収穫祭で、池戸会は餅つきを担当し、30kgをつきあげ、大勢の参加者に配りました。また、売店を開いて、会員有志から提供された花をはじめ、多くの農産物等を販売。約6万円の収入は本部に寄付されました。今回は、すべて会員有志のボランティアで運営し、同窓会の団結力の復活と心意気を示すことができました。ご協力、ご支援下さいました皆さまに改めて感謝。来年の11月3日（原則として決定）に向けてまた、気持ちを新たにしましょう！



高松龍雲支部だより

支部長 白坂 正明 (学1)、文責 矢部 薫 (学4)

恒例の池戸会高松龍雲支部総会は、平成23年2月25日(金)、高松市塩江町 新樺川観光ホテルで総勢19名が出席して行なわれました。

本年は前年に引き続き、農学部田中道男教授と4年振りに、川田和秀教授を来賓にお迎えして開催しました。両先生には、大学入学試験前の忙しいなかを御出席いただき有難うございました。

総会は例年どおり、太田幹事の進行で議事が進み、白坂支部長と来賓の先生方からそれぞれ挨拶がありました。今回は特に、池戸会の活性化ということで五井会長自ら、率先して支部へ出向いて力を入れておりますので、会員の皆様にあっても御協力を、お願いしたいということでした。

池戸会の収支報告書によると、会費の半分近くを学生の入会金で賄われている現状を鑑みても、私達も「池戸会報」を毎年送付されていますので、2,000円/年の会費は是非納入して頂きたいものです。もう一点は、私達に馴染みの深い「太郎兵衛館」の有効利用についてであり、いいアイデアがあれば寄せて頂きたいということでした。

さて、今年、嬉しい報せがありました。当支部長 白坂正明氏が長年、公共の利益に貢献



してきた功績が認められ、6月29日、法務省で江田五月法務大臣から藍綬褒章の伝達を受けられ、また、宮中では天皇陛下の拝謁を賜り、感激を受けて帰省しました。ここに心からお祝いを申し上げます。これに引き替え、昨年3名の物故者もありました。残念に思いますが、健康平均寿命も延びていますので、しっかり健康診断(特にKrebs)をしていただき再度お会いしたいものです。会議のあとは小宴会がありました。今回は、農学部附属農場で品種改良した葡萄からつくったワインを、田中先生が試飲させてくれました。私はワインを飲まないで味がわからないのですが、農学部の自己ブランドを世に出すことは素晴らしいことだと思います。その後、カラオケなどで宴を盛り上げ、本年の総会をお開きにしました。

広島支部だより

支部長 水主 洋三 (学10) 写真撮影と提供 坂本 正昭氏 (学12)

当支部総会は毎年11月の第一土曜日に開催することを申し合わせています。申し合わせどおり、平成22年11月6日(土)に3回目の支部総会を広島市内「国際ホテル」で開催しました。

この度は役員任期の満了に当たりますが、諸般の事業を勘案させていただき、現在の体制を維持することで、引き続き会の運営に協力いただくことになりました。

当日は、遠路のところ本部から田中道男先生にご出席いただき、池戸会や母校の現状についてお話をいただき、会を盛り上げていただきました。

会員のみなさんには卒業してから幾歳月を経て、母校のことなど懐かしく拝聴されたことと思います。

また、当日は隣の山口県からわざわざご参加いただき、広く交流を図っていくうえで有意義なことであったと思っています。これからも希望者がいらっしゃれば積極的に参加を促していきたいと思

っています。

さて懇親会の開宴にあたり、貴重な香川大ブランドのワインで声高らかに乾杯し宴会に入りました。終始なごやかな雰囲気です。歓談するうちに夫々自己紹介がはじまり、多士済々の顔ぶれ…に感嘆しました。このようなことで会も十分に盛り上がり、盛会裡のうちに閉会することができました。

今年も、ほつほつ4回目の総会を迎えることとなりますが、出席者のメンバーが固定化しつつあることや、若年層の参加が乏しいことが少し気にはなりますが、まあ当分は助走しながら、なんとかみんなで声を掛け合って、輪を広げていきたいと考えています。



高松支部便り

支部長 脇谷 武 (農2)、西岡 順 (学7)

高松支部は総会を平成22年11月6日に市内の南部に在る「香南楽湯」で開催しました。今回は現地見学で(学習会)で市内、塩江町の山麓にある花卉園芸団地の「香花園」を施設見学しました。この施設は「カーネーション団地で卒業生の真鍋光裕(学20回)真鍋住亮(学51回)が経営されている施設で、現地で真鍋光裕様より御説明・案内をいただきました。もちろん五井会長先生も同行して下さりました。花は丁度、シーズンでは無く残念でした。又、次に訪れる時には美しく咲きほころ開花期に訪れたいと思いました。

この思いをもって総会の会場へ移動しました。

総会の会場は「香南楽湯」でございます。総会は脇谷支部長の進行により予定の議案も全て了となり、又五井会長先生から近々の農学部的情況についてお話をいただき農学部の最近の姿を知ることができました。

この後、献立てを囲み酒を交しながら楽しいこん談を進めてお互いの「絆」を深め、次の総会での再会を約し散会しました。ここで末尾になりました

が、本池戸会高松支部の今回の礎を築いて下さった池上任(木田農36年卒)様が本年7月25日ご逝去

されました。本高松支部の創始者で、永らく我々、会員を御指導いただき、会の今日の礎を築いて下さりましてほんとうに「ありがとうございました」どうか安らかに眠り下さい。そして天国からあの池上任氏の温かい笑顔をおくって下さい。 合掌



カーネーション団地の見学 記念写真



惜別
池上任氏の笑顔

香川食糧支部総会報告

支部長 木村 耕造 (専2)

香川食糧支部第60回総会を平成23年7月2日(土)18時より高松市「仲見世」において、本部から奥田先生をお招きし、支部会員9名の参集のもと開催いたしました。

はじめに、従来から懸案事項でありました「今後の支部運営」について、支部長が当支部は昭和26年9月22日に香川食糧事務所在職者で香川農大同窓会香川食糧支部として発足し、当時の会員は70余名を教えておりました。

しかし、その後わが国経済の発展・食糧自給の緩和など順次の規制緩和による業務見直しが行われ、これに基づき定員削減が行われてきました。また、このほか定年退職・県外転出なども重なり支部の存続に支障を期す恐れが生じたので昭和59年から退職してもOB会員として残って頂くよう理解と協力を求めて、今日に至っております。現在、現職会員3名(香川農政事務所2名岡山農政事務所1名)OB会員14名は総て後期高齢者というのが現状であり、こうしたことを熟



慮した結果、今年度をもって解散したいとの提案があり、出席者全員の了解を頂きました。

次に、議事に入り提案議題は全て承認され、続いて、来賓の奥田先生から農学部と池戸会本部の近況についてお話を頂き懇親会に移りました。

懇親会は戸田副支部長の乾杯の音頭で始まり、約2時間に亘り楽しいひとときを過ごし今後とも池戸会との絆を大切に、健康で大いに頑張ることを誓い合い、岩沢先輩の締めで閉会しました。

最後に本部の益々のご発展をお祈りします。

高知支部だより

支部長 平岡 英一 (学8)

今年度から池戸会高知支部長をすることになりました平岡英一(学8)です。よろしくお願いたします。

さて、昨年度の高知支部会は、本部から岡崎先生をお迎えし若い女性の卒業生も加わり全10人の基に「学生時代のこと」、「現職場のこと」など種々の話に花を咲かせました。その中の一つ「会員」のことが話題に上りました。驚いたことですが、高知支部には現在82人の会員が在籍し、昭和12年度から平成11年度までの卒業生61人中、女性は4人。ところが平成12年度を境に、この年度からの卒業生21人中、女性はなんと19人。時代の流れ?はたまた、学科の編成などに伴いこのようになったのか、大逆転しています。他の支部も同じ傾向かと思いますが、われわれの時代は男性ばかりだったことを考えると老兵(じじい)には、戸惑いを感じるのみです。

つぎに、高知支部会開催について、高知支部は香川県のように多支部でなく、高知県全体で一つであ



るため今までは県都の高知市で同会を開いていました。しかし、郡部からの出席者は泊を必要とするためか、今一の出席率。そこで今回は高知県の西都で四万十市(旧中村市)で開催することにしました。名簿からこの地域の卒業生は8人いますが、全員この地域に滞在されているのか域外なのか、詳細は不明です(案内状の返送はない)。

この際、全員出席いただき、諸々の近況を語り合えたらと思っています。

徳島支部だより

支部長 瀬部 幸生 (学12)

平成23年3月11日に発生した東関東大震災でお亡くなりになられた方々、被災された方々に衷心より、ご冥福と、お見舞いを申し上げます。

長年の懸案の池戸会の活性化につきましては、本部の五井会長を初め、本部の皆さんに大変なご努力を賜っていることに深く感謝をし、我々も更にご協力、努力をしなければと、常に心に止めているところであります。

徳島県池戸会も、会の活性化を願って、昨年の総会で、役員若返りを図ろうと、会長、副会長、監査役等の交代が提案され承認されました。

そして、前大崎会長提案の「職域支部に加えて、学年別、学科別、サークル別の同窓会の活性化策」の具体化に、新役員が取り組むことになりました。

年を越し、恒例の役員会を平成23年2月10日に、徳島市内で、総勢21人で開催いたしました。

例年と異なったのは、徳島県知事を囲んで、天下国家を語り合い、徳島県池戸会を元気にする契機の日になればと願い、飯泉知事をお招きしたことです。

知事からは県政の活性化等について熱く語って頂き、

役員会も多いに盛り上がりました。

また、9月9日には、16名の役員が集い、会の活性化策の具体化に向けて、役員構成や会則の変更等について話し合いました。

少子高齢化真っ直中であって、大震災等を目の当たりにし、「お金よりも、人と人の絆、地域の絆が大切」との有識者の意見も最近、よく見聞きするようになりました。

“老いは若きに、若きは老いに接して、一層の絆を強め、社会の力になってくれ!”は、故富永徳島県池戸会会長の遺訓です。

今こそ、諸先輩方の想いを胸に、4年毎の徳島県池戸会報の発刊の継続に加え、他支部との交流、旅行やボランティアの実施等々、会員約400名の徳島県池戸会の活性化に取り組む時と、全会員の皆さんに粘り強く、働きかけていきたいと考えております。



大川池戸会報告

支部長 水口 勝 (専2)

本会は、さぬき市及び東かがわ市に在住する会員で組織され、規約により2年に1回総会を開催しております。

今年は9月24日志度町の小松真珠荘で、会員兼来賓として五井正憲会長、来賓として田中直孝先生を迎えて開催しました。

総会では、五井会長から池戸会活性化への取り組みについて、田中先生から農学部学生の半分は女の子、女性教授の活躍など学部の近況報告があり、役員改選など議事に入りましたが、やはり大川池戸会活性化についての意見が活発に出ました。

役員改選では、副会長に藤井昭博氏に代わって千田良信(学19)が選出され、幹事に大川地区は杉本利行氏(学16)、石川智氏(学11)、寒川地区は千田良信氏(学19)、長尾地区は古市崇雄氏(学34)がそれぞれ選出され、それ以外の役員は留任となりました。

大川池戸会の会員数は、本部から頂いた名簿では320名ですが会員の実態が把握できていないようなので、今回往復はがきによる案内状で出欠、近況、次回

からの案内の要否を聞きました。その結果、出席17名、死亡24名、欠席128名、(県外在住3名、案内内31名、案内不要94名)、宛先不明2名、返信なし149名となり、この内返信なしの取り扱いをどうするか課題が残りました。

結果的には出席者17名、例年と変わらない参加数となりましたが、参加者が若返りました、前回学卒が46%のところ今回は75%と大幅に若返りました。これも、五井会長自ら声掛けをして頂いたことと、役員働きによるものと感謝しています。

総会の後懇親会に移り、瀧崎進先輩の乾杯の音頭で始まり、初めて参加した人、年齢差など関係なく、少人数ではありましたが和やかな中にもにぎやかな懇親会となりました。次回は三木松で開催することを申し合わせて3時間に及ぶ総会を閉じました。



岡山支部だより

支部長 羽原政明 (学17)

今年は東日本の大震災、台風12号・15号等水害が多く見られました。被災された方のお見舞いを申し上げますと同時に少しでも早い復興をお祈りします。

さて、本年も支部総会を開催することができました。場所は例年と同じでJR岡山駅より徒歩で数分の距離にある「ピュアリティまきび」、日時は10月1日(土)18:30からでした。参加者の最長老は農大1回卒の平井大先輩、最年少は学37回卒の池田さん、その差は約40年ありました。また、本部からは岡崎教授・田淵准教授の2名に参加頂きました。両先生も香川大学卒業であり、岡崎先生とは部活で一緒、田淵先生は近年まで岡山に住まわれていたとのこともあり、共通の話題が多く大変盛り上がりました。岡崎先生からの大学の近況のお話は、特に興味深く聞かせていただきました。参加者は総勢46名でした。岡山支部では総会以外に、役員が打合せ名目の飲み会やゴルフ、一部の同期の方は同期会をするなどそ

れぞれの交流もかなりあります。しかし、今回は初参加の方もおられました。参加者の大多数



の方は固定されています。岡山支部がいつ発足したか明確には知りませんが、昭和42年にはあったと聞いています。大変に歴史のある会であり、諸先輩方が大事に守ってきたもので、継続・活発にすることは我々の責務と思っています。会を活発にするためには新しい方々の参加が必須です。若い方、女性、それに仕事に余裕のできた方などは、知り合いの方をお誘いの上、お気軽に参加されることを期待します。なお、池戸会のホームページを活用し、総会の案内をさせていただくことも計画しており、多くの方の奮っての参加をお待ちしております。

兵庫支部だより

支部長 葛西 利延 (学8)、事務局 武田 和義 (学17)

平成23年7月3日に近畿地域合同での池戸会が神戸の六甲荘で開催され、近畿各支部から56名(兵庫:21名、大阪:16名、京滋:11名、奈良:8名)の出席がありました。昨年からの各支部役員と打ち合わせをしてきた甲斐あって、楽しい総会・懇親会となりました。来賓として、大学からは早川茂農学部長、本部からは五井正憲会長と川田和秀教員が出席して下さいました。最高齢者は、35回卒(昭和16年卒)の渡辺安保氏(兵庫支部)と藤井勇氏(京滋支部)で、各支部の総会では出会えない同窓と出会うことが出来、旧交をあたためられたことと思います。兵庫支部の宮本秋義氏(大2)の東日本大震災への義援金のため自画の展示販売、大阪支部の松原勇氏(大1)の素晴らしいマジックショー、そして今回のためにわざわざ練習を重ねてきた兵庫支部の松康裕氏(学10)、京滋支部の三浦隆子氏(学15)、奈良支部の西尾和明氏(学17)によるハワイアンバンドの演奏等多彩な演出があり懇親会が大いに盛り上がりました。最後には、ハワイアンバンドの伴奏による早川茂農学部長の指揮で、出席者有



志の合唱「ふるさと」が会場にこだまし、数十年前の池戸で過ごした懐かしい学生生活を思い出し、青春時代に若返った一時でした。そして、また4年後の合同池戸会に、元気な姿で出会えることを誓い合って帰路に就きました。ある先輩から総会の案内に対して、出席して同窓と懇談したいのですが、体調が悪く出席出来なくてまことに残念ですとの返事がありました。後日少しでも総会の内容を知ってもらおうと写真を送りますと、ずっと写真を見つめて昔を懐かしんでいるとお礼の返事をもらいました。年を重ねると、昔が恋しく懐かしくなることを思い知らされた次第です。今後、出来るだけ長く池戸会が存続できたらと思います。

高松東部池戸会は支部活動のアイデアを求めています

支部長 伊谷 博明 (学3)
事務局 佐々木省三 (学8)

高松東部池戸会は、高松市屋島東町、屋島西町、春日町、高松町、牟礼町、庵治町のエリアとしている支部です。会員は155名と地元ならではの大所帯ですが、活動が活発とは言いがたく、2年に1度の総会には会員の20%程度の参加があるのみです。その参加者も固定化、高齢化しつつあり、よく参加される方々にのみ開催案内が偏ってきたことも、それに拍車をかけることになっていたのでしょうか。前会長の今雪史郎(農1)氏の発案で全員に連絡をしたところ現役世代の若手も少ないながら参加を見ました。丁寧な声かけはしなければならぬことを当然ながら知ったところです。

今年からは新会長は伊谷博明(学3)氏のもとで新しい視点の活動をするを模索しているところです。会合の参加者が少ないのは、地元だけに会員同士の顔見知りも多く新鮮味が欠けるのでしょうか。まずは会合での参加者を増加させることが大きな課題となっています。

ところで、母校を巣立った会員は、色々な分野で企業活動、社会から学んだ実学の徒です。30数年以上、社会の第一線で活躍してきた人も少なくありません。その経験を語ってもらうことはできないかと思

っています。どのような分野であれ、その語りは年齢を超えて共感、感動を生むものと期待をしています。

近くの支部間で講師として会員が交流することになれば、新たな効果が支部交流として生まれそうです。また、地元の強みは中学、高校と同級生、以前からの知り合いが多いことです。したがって会合などの参加についてお互いに声かけ合うことには抵抗は少ないものと思っています。会合参加などの際に会員相互に声かけ合うことを訴えていきたい。

何をするにつけても会員の皆様の協力が無くてはできません。意見、要望をいただき運営したいと考えている次第です。他支部で行なっています運営などについてのアイデアがありましたら、ぜひお教えください。

私は事務局の佐々木省三(学8)です。この役職も早く、若手に譲り、支援、援助隊にまわりたいと思っています。



高松西部支部の近況報告

支部長 森谷 忠造 (学8)

高松西部支部では、第30回を迎える、平成24年度総会を5月29日に予定しておりましたが、台風2号の接近による警報発令により、急きょ開催を中止するトラブルに見舞われました。

こうしたことから、7月17日にあらためて、総会と地区外見学会を合同開催しました。

当日は、朝8時に出発し、新居浜市の高砂庵盆栽庭園に10時前に到着しました。ところが、庭園所有者の世界盆栽友好連盟名誉会長でもあった岩崎大蔵氏が、先月他界され、休園していることが発覚し、見学会もトラブルの予感がしました。

こうした状況の中、苗美夫人の御配慮により、通常は有料のところ、無料で入園させていただくなど、「災い転じて福となす」のとおり、有意義な見学会となりました。高砂庵盆栽庭園は、面積約2万坪、所蔵数は五葉松を中心に黒松、赤松など20万鉢とも言われ、枯山水や芝生広場、展望休息所など、個人所有の庭園では他に類を見ない名園を、我々だけが入園できた歓びに浸りました。

また、今年11月に高松で開催される「アジア太

平洋盆栽水石高松大会(ASPAC)の折には、この高砂庵盆栽庭園のことが、クローズアップされると思います。新居浜の近くへ御用の際は、気分転換にお勧めいたします。

1時間半程度の見学会後、再び高松に戻り、料亭「一心」にて、見学会に来られなかった会員も参加して、総会及び懇親会を開催し、親睦を深めました。

当日は、五井会長が朝から、また、多田教授が総会から参加していただき、大学の現状などの報告を通じて、池戸会としての絆を再確認できました。今後とも、本部との交流を継続していただき、会員相互の親睦を図ってまいりたいと存じます。



昭和60年度入学農学科 同窓会

世話人 中田 毅 (学34)

最後の農学科学生である昭和60年度入学生の同窓会を平成23年1月9日高松美山ホテルにおいて、31名中19名という高い参加率のもと開催しました。クラスの最年長であるM君の声かけと香川県在住者の尽力により、入学25年の記念として、前回から10年以上の歳月を経ての開催となりました。

私たちは、西日本各地から集まった下宿生が2/3をしめるという、独特のノリつつこみと結束力を持ったクラスで、クラス内サークル(ハイキング同好会)の活動や農学部学生自治会の運営に関わるなど、活発でしたが先輩方からはやや生意気と煙たがられる存在でもありました。

あのことと同じ笑顔がすでにあふれる中、クラスのヒーローK君の乾杯によって同窓会は始まりました。大学周辺や下宿の今の姿の slides 上映、昔乗っていたみんなのバイクの紹介、さらに各自の近況報告と続き、大いに盛り上がりました。あのことと同じタイミングでツッコミとほげが繰り返され、二十数年の時間を戻り思い出話を花を咲かせました。地元組の送迎の時間はすぐに来てしまいました。その後、気がつけば1時過ぎまで宿泊組は談笑を続けました。翌朝は、下宿でザコ寝した時と同じ順番で目

覚め、高松でのクラスの拠点であった下宿「英アパート」を訪れました。当時から古ぼけていたそのアパートはそのままの姿をとどめており、写真を撮るものもありました。名残惜しい中、締めはやはりうどんを食べ、解散となりました。

誰が帰るときにも、別れる際には、「ありがとう。また会おう。」という言葉が交わされ、誰もが再会できたことに感謝している様子がとても印象に残りました。また、後日「楽しかったー」というメールが全国を飛び交いました。

次回同窓会は、県外での開催となりそうです。新たな再会を期待しています。



学4 農化会の開催だより

幹事 江見 彰夫、文責 矢部 薫 (いずれも学4)

本年(H23)の学4農化会は、6月10日(金)と11日(土)の両日、9名(写真のとおり、1名は夫人)が出席して岡山県笠岡市笠岡グラウンドホテルを中心に開催しました。暦の上では6月11日が入梅でありましたが、今年中は・四国地方は5月26日に梅雨入りし、半月早くやってきたので、当日(6月10日)は小雨がぱらついたりしたものの、まあまあ『よかった』と思っています。この会も1年に1回、お互いに顔合わせをしていますが、1年振りに逢うと、『元気だったか?』と思わず声も迸ります。6月10日夜の小宴会は場所を移して行ないましたが、当笠岡市は元々漁業のまちであっただけに、飲み屋も多く、魚も活きがよく、旨い料理に舌鼓をうちながら、いつものながらの昔話の長談義に華を咲かせました。幹事が作成した「学4農化会」のあゆみを眺めてみると、H9(1997)の伊吹島(香川県観音寺市)の開催以降、毎年1回何処かで会をもち、もう15回も続いています。それ以前にも時々会う機会を持っていましたが、これだけ毎年続くと楽しみであり、思い出にもなります。

H17(2005)、岡山での備前焼工房では、不細工な自作の湯飲みコップを焼いてもらい、後送されたものを

今、見て懐かしい思い出として残っています。翌日(6月11日)は、笠岡市から北へ車で30分位のところにある井原市の田中美術館へ出かけました。この美術館には、井原市出身の平櫛田中の作品(主に彫刻)と田中と関係深い作家や平櫛田中賞を受賞した作家の作品が展示されていました。前日、笠岡市グラウンドホテル内に設けられた地域文化向上を目的にしてワコミュージアムでの絵画、書といった作品を鑑賞したりしたので、今回は久しぶりに美術作品を堪能した2日間となりました。来年は、香川県の中讃地方(丸亀、坂出)での開催を、予定していますので、今から団扇作業所へ行こうか、造船所はどうだろうかと考えたりしています。



食品学科同窓会 (S47年卒)

世話人 白石久二雄 (学17、院5)

去る7月2日(土)、快晴、3時に20名が白山のトレストア白山に集合した。会の前にホテルのバスで農学部に向かう。卒業以来40年ぶりのキャンパスである。土曜日にもかかわらず、池戸会大学支部長の田中道男教授の案内で学内を見学する事ができた。この場を借りてお礼申し上げます。記念写真は玄関と屋上で、人工的に禿あがった白山を見て唖然としながらも、白山をバックに撮ってホテルに戻る。6時から同窓会開始、昨年亡くなった北島氏の冥福を祈り黙祷、世話人代表の挨拶、乾杯後しばらく食事を摂りながら歓談した。その後、入学式から卒業までの思い出の写真を映写した。みんな20代の自分に戻り、あちこちから興奮した若い声が出てくる。40年の時間など簡単にバックできるのだ。次はいよいよ全員の近状報告、みんな久しぶりのこと言いたいことが山ほどある。予定時間を30分超過して何とか9時に終わる事ができた。2次会は施設内のカラオケルームへ、田舎であるが故に選択の余地は



ない。話に夢中でグラスは離さない人はいてもマイクを握る人はいなかった。これが本当の空オケルームだ。話はいくら時間があっても尽きないが、無情にも終わりのゴングは鳴った。約半数は会場のホテルに宿泊した。今回は開催場所を変えて関西方面で、5年後を目処に開催することになっている。今回、都合で参加できなかった皆さん、次回は是非会いましょう!連絡先の変更は次回幹事の加守田氏に届けてください。

昭和56年度園芸学科入学生 同窓会

世話人 彦坂 昌敏 (学30)

昭和56年度園芸学科入学生の同窓会を平成23年10月9日に高松市内で開催しました。入学からちょうど30年目の区切りに28名中16名が集まりました。また、池戸会会長の五井正憲先生と担任の市川俊英先生にもご参加いただきました。

市川先生は今年の3月に定年退官されたとのことで、卒業生一同からの記念品をお渡ししました。市川先生からは私たちとソフトボールやバドミントンなどをした思い出や健康に留意して長生きするようにとのお話がありました。

五井先生からはガラリと変わった農学部の様子や同窓会の果たす役割、農学部でできたワインのことなどについて伺いました。

20数年ぶりの再会でしたが、学生時代の思い出話のほか、仕事のこと暮らしのことなどの近況報告で盛り上がりました。職場で頑張っている人、農家を継いで頑張っている人、子育てや孫育て真っ最中の人などみんな充実した生活を送っているようでし



た。また、健康に関する話題も多く飛び出し、お互い年をとったなあ実感しました。

楽しい時間は過ぎるのが早く、2時間半の1次会はあるという間に終わりました。場所を変えた2次会でも話は尽きず、日付が変わるまで充実した時間を過ごしました。

翌日は有志で農学部を見学しました。研究室や温室、実験圃場、大学周りのお店や下宿の様子を見て回りました。その後、讃岐うどんを食べ、屋島寺を参拝して解散しました。

次回は5年後に関西方面で開催する予定です。

22年度

会員短信

松原 好勝 (木田農 32)

ご無沙汰しています。新聞紙上に発表された研究文や記事を切り取り集めるのが趣味となり25才位から続けています。冊子として残しています。ふりかえって読むのもたのしいです。母校の発展を祈ります。

鏡原 義末 (木田農 33)

誠になつかしい「池戸会」昭和14年～15年と思い出の深い学窓、いくつになっても思い出は有難いものと信じがんばっております。

細川 明 (木田農 34)

昨年子孫の為に自分史「私の履歴書」を完成。おかげさまで健康だし、毎日暇なので、好きな読書やマイカーでの旅行を楽しんでいます。池戸会の益々のご発展を祈念いたしています。

河野 新平 (木田農 35)

今冬も目白が軒下の蜜柑を啄んでおります。私も米寿を迎え元気で、最近体調も良く公園へ写生に出かけて居ります。この公園にはメタセコイヤの木が80本程生育しております。碧空に聳える姿を眺め母校を忍んでおります。「とほとほと絵筆を杖に老を生」

宮武 晃 (木田農 35)

元気で晴耕雨読の毎日過ごしています。

三井 司 (木田農 36)

お陰様で夫婦共に健康に恵まれ、元気に致して居ります。貴会会報楽しく嬉しく拝見して居ります。貴会の益々の御発展を祈念致します。現役から引退して10年と来名以来51年となり今年度は来名の基となりました愛知用水通水の50周年を迎えます。

野田 弘之 (木田農 42)

お世話になっております。昨年のVol.52号の会員短信で、同級生の藤堂郁雄氏がくわしく近況を書いており、大変なつかしく拝見しました。彼は文学、文章に興味があり、好人物で仲良くしておりました。最近、同級生の島田裕氏とも語り合っています。小生は「文化たかまつ」誌の編集などや2,3の団体の世話をやって楽しんでおります。母校と池戸会の繁栄を記念いたします。

長井孝二郎 (農専 1)

83才になりましたが相変わらず農業に励んでいます。

今雪 真善 (農大 1)

池戸会報第52号拝受。カラー刷の面目一新した会報は字が大きくなり、大変読みやすくなっています。

岡 勲 (農大 1)

今年80才になります。最後の年会費を納めます。昭和29年春卒業以来、57年間、大学の門を一度もくぐったことはありません。今年は機会を見つけて、大学を訪問できたらと思っています。新春の夢です。

泉 悦夫 (農大 2)

農林水産省を勲奨退職後老骨を鼓舞しながら、郷里での教職も5年程前に無事に終え、一步一步あゆんできた人生に幸せを感じながら余生は趣味の囲碁・盆栽に精出しています。

賀川 實 (農大 2)

年を重ねるとともに老いが進んでいます。が元気です。

住友 昭利 (学 1)

年金生活で77才を迎える年となりましたが、病院での検査を受け乍らも、毎日の生活に満足しながら元気に過ごしています。

妹尾 慎太郎 (学 2)

お陰様で元気で過ごしています。昨年は同期で仲良かった友人2人が死去し、ショックを受けました。健康第一でいきたいものです。

清水 智 (学 4)

高校教職員後、徳島保護観察所所轄の保護司を努めております。近年の我国は少子高齢化の社会進行の中で、犯罪の低年齢化と高齢者の累犯が非常に問題となっております。安全、安心の保障される社会づくりに頑張っております。香川大学農学部の彌栄と池戸会の発展を祈ります。

田井 敏司 (学 4)

草花の育苗(ビニールハウス)と公用地やローカル線の駅など花壇づくりをしております。自宅の花壇は「子どもたちが遠足に来る庭」(NHKテレビで全国紹介)としておとぎ話の場面を15面造り子どもたちと歌を唱ったり、お話を聞かせる庭としております。

浅原 秀志 (学5)

今は毎日日曜日で、家庭菜園等で毎日すごしています。

小田 憲男 (学6)

元気に過ごしています。ウクレレ楽しんでます。

香川 俊 (学6)

晴耕雨読の毎日です。池戸会の今後益々の発展を祈願いたします。

川合 貴雄 (学6)

農協職員や農業従事者に対する野菜栽培技術支援、有機、JAS 検査員、農業資材製造会社での園芸培土の開発等で充実した日々を過ごしています。

常信 武雄 (学6)

ご無沙汰しています。毎日を好奇心を持って過ごすべく努めています。

大崎 吉康 (学7)

昨年社長より会長になり、池戸会徳島会長も退職しました。又マリン会（海水利用）の会長も退き、今迄自分で歩んだ道をふり返り再考したいものです。

大坪 善行 (学7)

昭和22年10月26日～27日に学7回卒同窓会が三木町「ヴィラ讃岐」で開催されました。参加者が多く盛会に行われ、記憶に残る2年に1度の同窓会に参加することができました。一段と体力の衰えから参加できる時と思えば若い時代を思い出しているところでもあります。また、多くの友達と会えることが楽しみです。OG、OB訪問の人物紹介をもっと広く多くされると卒業生の活躍がわかり、大学発展、池戸会の為にも良いと思われれます。

戸出 英輝 (学7)

体力維持のため、1日1万歩以上を7年以上1日も休まず続けています。ここ数年は速歩でやっています（雨天時は室内で）。そのほか腹筋を連続100回以上も加えています。よってすこぶる健康です。

藤原 伸一 (学7)

食道がんになり14年が過ぎましたが再発はありません。スポーツはゴルフ、スキーを共に止めましたがテニスだけは週に一度だけ継続しています。

三重野 岳 (学7)

昨秋、同窓会の行事のひとつとして、大学を訪問さ

せて頂き会長の五井先生より池戸会の現状等をご説明頂き、大変ご苦勞されていることを知りました。だから、会費だけでも絶対に忘れずに…とつくづく思いました。これを読んだ皆さん！ぜひご協力をお願い致します。

岩藤 正雄 (学8)

日生教の全国大会が今年は名古屋であります。環境教育について学びたいと期待しています。ライオンズクラブは複合が5月に徳島であります。阿波おどりに興味があり、探訪したいと思います。

國分 東洋彦 (学8)

本年（2011年）私6度目の年男。「四苦八苦、1つ残して六度目の兎に会って、めでたくもあり」の心境です。本年もよろしくお願い申し上げます。

瀬尾 光興 (学8)

「さぬきよいまい」当たるかなあ！？2011年元旦にプレゼント券をハガキに貼付しました。ついでに一筆。「商社の枠を超えて、研究開発部門、製造部門を持つ知恵をビジネスにする情報企業－長瀬産業」新幹線のぞみで、こんなテロップ見た方いらっしゃいませんか？そんな商社に入社し、スイス国チバ社からエポキシ樹脂の技術導入・国産化の仕事をした後、大阪・名古屋・東京で営業やってきました。各地域での池戸会には一度も出席せず申し訳ありません。6年前に故郷さぬき市に戻って来て、地域社会の世話役、野菜作り、ゴルフ、麻雀、カラオケなど「積極的その日暮らし」をやっています。

岡西 勝一 (学9)

青春時代（50年前）、苦しいときもありましたが、振り返ってみると、楽しい4年間でした。もう一度元氣な20歳になりたい。

三國直世志 (学9)

2010年古希を迎えました。記憶力、体力の衰えが目立ち始めましたが、週2回のグランドゴルフ、月2回のゴルフ並びに中学生時代からの趣味である探偵小説（推理）の研究サークルに入会して古い小説を読んでその感想等を語り合っています。会員は阪大、関大、同志社大のミステリー研究会の現役とそのOBです。若い人から刺激を受けて頑張っています。

黒川 章男 (学10)

池戸会の盛会を祈ります。広島支部も頑張ります。

卒業生の ひろば

成広 俊明 (学10)

体力の限界を感じる歳に近づき体力まかせの農業(稲作)もそろそろ終わりかな?片手間の労働安全コンサルタント業もPC(パソコン)のフル活用で講演、講師業も準備作業に慣れないキーボードを打ち、思うように出来ない画面に我身の不勉強を反省しながら、全部が臆病になってしまっている今日この頃です。

竹原 彬之 (学11)

会報を編集、発行されている方のご苦勞には頭が下がります。

津田 和美 (学11・攻8)

オリジナル酒米品種開拓成就おめでとございます。グルメブームの先駆けなることを願っています。

長岡 勝己 (学12・攻8)

66才から週休7日の生活を始めました。2本杖の生活ですが、庭の手入れ、野菜作りをしています。

宮本 忠 (学12)

高校の農業教員として定年退職、県立五色台少年自然の家の嘱託職員として2年間勤務後、健康に留意し、畑仕事やウォーキング等を楽しみながら充実した日々を送っています。また、地元自治会、退公連の役員として地域のボランティアに励んでおります。最後に池戸会のご繁栄を祈念いたします。

渡辺 洋一 (学12)

実家の地元の小学生達を対称に囲碁教室を開いて楽しんでます。

長森 和道 (学13)

今年は四国お遍路結願。11月に高野山に参り宿坊に泊まりました。

灘波 勝 (学13)

平成22年10月岡山で第3回同期会(学13・農芸化学)をやりました。12名出席。ほぼりタイヤしています。

山本 隆博 (学13)

農業工学科を出た者としてなじみがうすくなってきました。それもあってか同級生が会費を納めていないのが!過年の会費を含め納入します。

渡辺 満 (学13)

県退職後、農協5年目です。ボツボツ次のことをしたくなっている今日この頃です。体調はすぐれません

がどうにか保っています。

山本 英雄 (学14・修2)

退職して5年。サンデー毎日。でも4月~9月の間は植物調節剤研究協会のお手伝い。昨年12月にフルマラソン(奈良)に初挑戦したが、時間制限でバスに強制収監。今年再挑戦。帰路40年ぶりにアポなしで久保先生に会うことができ、1時間強昔話や近況を話しあいました。時々、香川に行くことがあり、浅沼先生所属のソフトボールチームの練習に参加したり、昨年は偶然にも8月三木町での「上野由岐子(北京五輪ソフトボール金メダル投手)トーク」や11月農学部での「花育シンポ」等に参加しました。

大橋 正光 (学15)

毎日常磐線に乗って日本橋まで通っております。医療機器関係の仕事も早11年を過ぎました。小生の農芸化学科のクラス会は毎年秋に1泊2日で全国を持ち廻って実施しております。2011年は11月頃滋賀県で行われる予定です。平均27名中15~20名参加し大盛況です。

坂本 全一 (学15)

定年後3年まだ勤めております。そろそろ完全リタイヤを考えております。

岡田 正 (学16・修4)

防衛省を定年退官して、7年目になります。大学教育は毎回の授業内容を改善して、学生が少しでも興味を持つように、より新鮮な情報を取り入れ実施しております。大学教育当初1時限90分が長く感じておりましたが、次世代の若者を少しでもよりよく育てようと懸命に教育していると同じ90分とは思えない程になりました。あれもこれも実社会ではこんなアプローチでこの分野と深く勉強しておればこのように役立つと、具体例を挙げながら必死で教壇に立っております。なにしろ、私のユニークなところは、防衛省で外交官、研究職、教育職、管理職など実社会で培った経験です。実生活で役立つであろう話を教育の合間に話し、教育にメリハリを取り入れてとにかく「昨日より今日の教育をベターにする」をモットーに頑張っています。

武田 和義 (学17)

兵庫池戸会の世話をしています。来る平成23年7月3日(日)に近畿地域の合同池戸会を神戸で開催予定です。こぞって出席をお願いします。

船本三千夫 (学17)

平成22年10月に徳島県池戸会に出席して、立派な先輩方がたくさん文化勲章に輝かれているのに感心し

ました。平成23年3月で再任用も満了となり、39年間の公務員生活も完了です。数学者の森さんの「人生20才×4倍」の気持ちで第四の20年を心あらたに出発したいと思います。

松井 洋一 (学17)

平成23年の新年を迎えることができました。小生第三の人生を歩み始めようと1月半ばで職を辞し会社人間から自由人になりました。足の向くまま気のむくままの生活を少ししてみようと想っております。

光山 治夫 (学17)

平成22年3月をもって兵庫県を無事退職しました。4月からは再任用制度で週4日兵庫県職として働いております。

井上 啓子 (学18)

お世話になります。還暦+1才になり、またあつという間に60代が過ぎてしまいそうです。元気でいたいですね。

城 敬治 (学18)

退職し、農業をしています。

外山 有一 (学18)

農業高校で造園を教えて37年、H22.3末日で定年退職しました。自宅にて自由な時間を楽しんでいます。10月に筑波で2週間研修受け樹木医になりました。

則井 孝文 (学18・修6)

大学を卒業して36年。毎年会報を送ってくださってありがとうございます。

赤本 和夫 (学19)

暑い夏に冬の大雪と最近では自然現象が厳しくなり健康管理が大変です。東北では巨大地震もありこれからが心配です。

福本 正 (学19)

昨年は稲作と畑作の作業（土づくり・播種・水管理・草引・施肥・収穫・片付け）の大変さを実感した1年でした。それまでは市役所に勤務していた関係上、農繁期のみは休日農業が中心でした。今年は納屋も建替え（4月完成予定）で、二年目の挑戦です。

安富 範雄 (学19・修7)

昨年9月で大塚化学(株)を定年退職し、新会社大塚アグリテクノ(株)に勤務しています。肥料も農薬も国際的競争力が益々問われてきていることを実感していま

す。ようやく四国に落ち着き、四国の農業を見、考えていける様でありたいと思っています。

小林 正規 (学20)

会報いつもなつかしく読ませていただいています。卒業して35年人生も後半です。あの頃が思い出されます。

永田 陽頼 (学20)

昭和52年4月に香川県三豊郡山本町役場に就職、平成18年1月1日に7町が合併して三豊市に。平成23年3月31日をもって退職となります。今後は健康に注意をして、地域に根ざした活動に取り組むつもりです。

札幌 豊 (学20・修8)

小学校の子ども相手に何とかすごしています。池戸会の会報を見るたびに「なつかしいなあー」と思っています。

湯地 和夫 (学20)

平成22年の我が町川南町は口締疫で大変でした。自治会役員をやっている関係で消毒ボランティアへの動員や各種行事の先送り等々。でも地方の衰退は以前からの傾向で全国的な対策が望まれます。

黒川 洋一 (学21)

今年、勤めていた会社を定年退職致しました。現在は失業保険を受給しながら、職を探しています。故郷香川に帰り、地に足を着けて第二の人生を歩んでいこうと思っています。

福武 昌昭 (学21)

学生時代が懐かしい！あの頃は、若かった。いろいろな思い出が（楽しかったことや…その他イロイロ…）戻れるものなら、戻りたい。学生時代、「電子計算機入門」で苦勞しました。今はパソコンでブログにツイッター、がんばっています。？（時代は変わりましたが）人間は“心”が大事!!（身体も大事!!）健康が一番!!

大石 雅章 (学22)

卒業以来、ずっと小豆島で生活しています。生まれ故郷で過ごすことができ、それなりの幸せを感じています。今後は島の活性化のために何とかしなければと思っています。

大田尾 龍郎 (学22)

香川県下に泥足にて踏み込む意気あれ農学部

高原 宣隆 (学22)

昨年（平成22年）は初孫が長女と次男夫婦の両方

卒業生の ひろば

に出来いっぺんに爺さまになりました。特に長女夫婦共に香大出身で結婚後も高松に在住にて時折孫の顔を見に行きます。「みそやの大将」でブログ執筆中。

盛野 元 (学23)

淡路島といえばたまねぎが思い浮かぶと思います。「柔らかくて甘くておいしい」と評価をいただいておりますが、この度「淡路島たまねぎ」として地域団体登録商標を取得しました。これまでたまねぎも栽培しながら33年間農協で、営農指導の仕事をさせていただきましたが、近々おいしいたまねぎの栽培に集中する予定です。

辰野 謙二 (学24)

学生時代に勉強した麺や専門科目が製品開発や企画開発に活かされて出張の度に改めて香川県の麺文化の奥深さに感銘しています。音楽も学生時代のユウボユニティの仲間と月1回ペースで高松市内で活動しております。

姫野 伸二 (学24)

池戸会報がリニューアルして、興味深い内容になっていますね。関係者の皆様の努力に敬意を表します。会費を支払う気になります。

鍵村 達夫 (学25・修13)

Vol.52の会報ありがとうございました。東東亭なつかしい〜。杉澤先生がお亡くなりになったことにびっくり。そしてキューピーの竹村さん。同級生じゃん。とおどろきました。ひさびさのたよりはたのしかったです。

岸 陽一郎 (学25・修13)

農業普及指導員として、花卉の技術指導などに携わっています。池戸会報を楽しく読ませていただいております。

木村 一 (学25)

昨年、学生時代の友人に三十数年ぶりに会うことができ、たくさんのお会いに恵まれていた当時をあらためてふりかえる機会となりました。ありがとうございます。

小田 利一 (学26)

今年苦しい時に下記の事を思い浮かべたいと思います。「世界には60億人の人々がいて我々以上にたいへんな思いをしながら、それでも明るく生きている」今年もどうぞよろしく願い申し上げます。

中野 来 (学26)

中華料理東東亭とても懐かしく読ませていただきま

した。昭和52年4月に入学した当時と変わっていません。天津飯は好物のメニューでした。

岩谷 綾乃 (学27)

会報の封を開けてまず見るのは、自身の投稿文と別紙会費納入者同期生欄。安堵と郷愁の感を抱きながら、我唯一の読者（竹内さん）のために来年もと……。追伸 さぬきよいま酒当選！早速、日本酒通の父に送付。「だんだんうまくなってきたな。よう研究しとる。」とご満悦。（過去に、ネットでプレゼント）うれしいの一言です。

岡田 明 (学27)

昨年より大阪工場の工場長として頑張っています。これで9回目の辞令です。母校の発展を祈念いたします。

彦坂 昌敏 (学30)

池戸会報を毎回楽しく読ませていただいております。Vol.52の特集記事「東東亭」は熊野荘に4年間お世話になった私にとっては、非常に感慨深いものでした。天津飯（大）の味の記憶が今でもよみがえります。讃岐うどんと同様に思い出の味です。機会があれば食べに行きます。

野々口猛浩 (学35)

今年も池戸会報ありがとうございます。私もすでに44歳、独身、非正規雇用です。時々指圧も行っています。しかし身近には私と同じくらいの年で事故死された方や病気で働けなくなった方がおられるので健康で働けるだけでも幸せだと思っています。卒業から約20年、農学部に比べて本学は当時のおもかげがけっこう残っていて（もちろん改修はあちこちでなされています）大学祭に行くとなつかしいものがあります

守家 英規 (学35)

40才を過ぎて来ると若かりし頃の夢がなつかしくなります。同窓生達と同様の事を語り合うのはとても実のある事です。皆さん集合！

重松 誠一 (学36)

池戸会報楽しみにしています。久しぶりに香川に行ってみたいです。

向原 学 (学36)

現在、弁理士として東京で働いております。

植田 晃弘 (学37)

現在は、広島県の尾道農林事務所集落法人育成の業務に携わっています。

笠原（居森）奈穂子（学37・修25）

平成20年3月に結婚し、改姓となりました。平成22年に引越しし、住所が変わりました。大学には遠いので全く帰る機会がないのですが、また、一度帰ってみたいと思います。

延原 賢郎（学39）

池戸会報 Vol.52 特集「東東亭」を読んで懐かしく思いました。当時「熊野荘」に住んでいて、週2日は天津飯を食べていた様な気がします。次はうどん屋特集を…。

山下（川田）陽子（学42）

子供も1歳半になり、植物に触れるようになりました。

石田（山本）聡美（学43）

東東亭の記事なつかしかったです。

青木（稲田）幸恵（学44）

事務の仕事の続けながら子育てしています。長男が2才になりました。大学に在籍していた頃が懐かしく思い出されます。皆さんお元気でしょうか…。

後藤 祥司（学45）

昨今の農業状況をみると、以前に増して、厳しくな

るっぽうです。行政にたずさわる人間として非常に苦勞しています。会報を見ると新たな光がさしこむような研究の成果などが掲載されており、頑張る意欲をいただきました。本当にありがとうございました。

山崎 純子（学48）

今年3人目の子供が産まれます。父の仕事を手伝いながら、主婦業にも追われており、自由に生きていた大学生活が恋しいです。去年マイホームもゲットしたので、これからは、年1回家族で海外旅行に行くのを目標に日々頑張ります。

岩見 健吾（学51・修39）

新潟に転勤になりました。夏に第2子が誕生予定です。

濱口 佳奈子（学52）

社会経験をして再び勉強しなおしたいと思うようになり、他大学他学部ですが大学院への進学を考えております。

丸田 裕司（学56）

新入社員として、只今研修中です。



コトデン

KOTO
DEN



IKENOBEKAI NEWS vol.53

会費納入および住所調査のお願い

本会報に同封の郵便振替用紙にて、年会費2千円の納入をお願いします。数年分まとめて振り込んでいただいても、各支部でまとめて納入いただいても結構です。(なお、80歳以上の方は無料です。また、地域支部一括の場合は還付金があります。)

池戸会報 vol.53

発行：平成23年（2011年）12月

印刷：平成23年（2011年）12月

発行所：香川大学農学部池戸会

〒761-0795 香川県木田郡三木町池戸2393

TEL・FAX 087-898-8615

E-mail: ikenobe@ag.kagawa-u.ac.jp

郵便振替口座 01620-1-5001（香川大学農学部池戸会）

編集担当：多田（学28）、奥田（学34）、一見（学37）、
田淵（学37）、渡邊（学38）、田中（直）（学40）

印刷所：小野高速印刷株式会社 〒870-0913 大分県大分市松原町2-1-6

TEL 097-558-3444 FAX 097-552-2301